

デジタル・レイバーの活用で働き方改革を推進

IBM 業務自動化ソリューション

働き方改革を実現する手段の1つとして注目を集めている技術が、単純作業をソフトウェア・ロボットに代替させる RPA (Robotic Process Automation) です。RPAを活用することで、知的労働者は単純作業から解放され、より重要な業務を担うことができるようになります。

知的労働者が日々行う作業には、紙にある情報を読み取ってデジタル化したり、意思決定を行ったりと、RPA だけでは処理できない作業も多く含まれます。

IBMは、業務の見える化を行い、RPA、OCR、BPM、ルール、コンテンツ管理、AIといったさまざまなソリューションで、真のデジタル・レイバーを実現します。



IBMの業務自動化ソリューション

あらゆる業界で企業のデジタル化と業務の自動化が進んでおり、生産性の向上が推進されています。より重要なことは、ヒューマンリソースを付加価値の低い平凡な仕事から解放するだけでなく、付加価値の高い仕事においても支援できることです。IBMは大規模な業務をインテリジェントに自動化するように設計された包括的なソリューションを提供します。AIや機械学習を活用してビジネス・プロセスを簡素化し、ビジネス・リスクを最小化することができます。

- 自動化に関する6つの中核機能（モデリング、キャプチャー、タスク、コンテンツ、ワークフロー、意思決定）を提供
- ビジネス・ユーザー向けのローコード開発ツール
- 統一化されたユーザー・エクスペリエンス

- 単一のライセンスで全ての自動化機能が利用可能な統合プラットフォーム
- クラウド、ハイブリッドクラウド、オンプレミス環境に対応
- 小規模から開始して拡大可能

急がれるデジタル化対応

低い労働生産性や少子高齢化による労働力人口減少などを背景に、日本企業は業務の自動化を中心としたデジタル化への対応が喫緊の課題として求められています。近年では、大規模災害や新型コロナウイルス感染症などの非常事態への対応を迫られ、より一層の働き方改革や業務の変革が求められています。政府でも印鑑の廃止をはじめとしたデジタル化を推進しており、その影響は民間企業にも波及しています。今後ますますデジタル化への対応が企業の業務継続とビジネス成長に不可欠となるでしょう。

業務上の課題

多くの企業が、事務マニュアルに業務プロセスを記述し、全体の整合性を保ったまま保守・管理することに限界を感じています。

RPAの導入により単純作業を部分的に自動化することは可能ですが、業務を最初から最後まで通して自動化することはできません。紙やPDFなどがインプットとなる場合や、印鑑が必要な承認プロセス、他システムとの連携がある場合、一連の作業は分断され、業務効率の改善には限界があります。

ルールやポリシーに基づかない属人的な意思決定は効率が悪いだけでなく、コンプライアンス上の問題となる可能性もあります。

企業が蓄積したコンテンツは競争力を生み出す源泉となります。過去事例などは、類似事例の参考になるだけでなく、新たな気づきから新ビジネスを生み出す可能性もあります。コンテンツに容易に検索、アクセスできる必要がある一方で、これらは機密情報である場合も多く、安全にアクセス制御・管理されなければなりません。

また、法改正や非常事態への対応など、いったん構築した業務でも変更を求められる機会は少なくなく、迅速かつ低コストに対応できることが望まれます。

IBMの提供する業務自動化ソリューション

IBMの提供する業務自動化ソリューションの中核には、6つのインテリジェントな機能があります。

- ・モデリング : 企業経営を文書化、分析、改善するために業務プロセスをグラフィカルに表現
- ・キャプチャー : 紙または電子文書からのデータ抽出
- ・タスク : RPA(Robotic Process Automation)の「ポット」を使用した、反復的な作業の自動化
- ・コンテンツ : 非構造化情報(ドキュメント、テキスト、画像、オーディオまたはビデオ)の管理
- ・ワークフロー : 人間とシステムによる一連の作業を実行
- ・意思決定 : ルールとポリシーを使用した意思決定の自動化



IBMの業務自動化ソリューション

これらの機能は、統合された包括的な2つの自動化プラットフォームで提供されます。コンテナベース・アーキテクチャーで任意のクラウド環境に導入可能なIBM Cloud Pak for Business Automation*1と、SaaSとして提供されるIBM Digital Business Automation on Cloud*1です。また、必要に応じて個々の機能をオンプレミス環境に従来通り導入することも可能です。IBMの提供する業務自動化ソリューションは、企業が抱える課題を解決へと導くだけではありません。分析やプロセス・マイニングによる業務の洗練を可能にし、AIや機械学習などを組み込んだ高いレベルでの業務のデジタル化、自動化を実現し、企業に大きな効果をもたらします。

*1 詳細は後続ページを参照してください。
*2 Blueworks Live は、SaaSのみの提供です。



企業が抱える業務上の課題と対応するソリューション



IBM Blueworks Live

ソーシングやRPA 適用、業務標準化など、さまざまな場面で活用される業務プロセス図。新しく作っては更新せずに陳腐化を繰り返していませんか？ IBM Blueworks Live は、直感的な操作とシンプルな機能で、誰にでもすぐに使える業務プロセス作成ツールです。
最新版の業務プロセスを簡単に更新・一元管理して、業務プロセスを資産化します。

- インストール不要：ブラウザーがあればすぐに使用可能
- トレーニング不要：操作がわかりやすく簡単
- クラウドでバージョン管理：複数バージョンの参照・復元

- 分析と改善：コストや時間など、任意の属性を可視化
- 共有と活用：Web 公開やファイル出力、IT 開発への連携

合意形成を支援

長い年月を経て築き上げられた業務オペレーションは、簡単に変えることはできません。一方で、デジタル変革を実現していくには、手作業を前提としたルールや手順を抜本的に見直す必要があります。

業務のやり方を変革していくには、組織や拠点をまたがった合意形成が重要です。IBM Blueworks Live は、コンサルタントのためのツールではなく、業務をよく知る現場担当や社内プロジェクト・チームが簡単に業務プロセスを書き、改善にむけたコミュニケーションを行うためのツールです。

共同作業による業務プロセス作成や、いつ誰が何を変更したのかがすぐにわかるアクティビティ・ストリーム、チャットやコメントといったコラボレーション機能により、マネージメントと現場、異なる組織や拠点間での合意形成を支援します。

業務プロセス作成における使いやすさを追求

業務プロセスを作成すると、人によって記述の詳細さが全く異なります。経営層やマネージメントはバリューチェーンや業務単位で粗く捉え、現場担当者や IT システム部は手順書のような細かさで書くことが多くあります。

Blueworks Live では、最初にディスカバリー・マップを作成し全体を俯瞰することで、範囲や粒度を検討しやすくしています。マップはテキスト入力のみで作れるので、ヒアリングしながらでも早く効率的に作業できます。

他の人が作成したプロセスの粒度やコメントを反映して、粒度を調整することも簡単です。

業務プロセスでは類義語が頻発し、用語の統一が課題となります。Blueworks Live では、グロッサリー機能によって複数の業務プロセスにわたって使用されている類義語をリストアップし、使用される場所を確認したり統一したりすることができます。

表計算ソフトと何が違うの？

Blueworks Live では業務プロセスが別々のファイルに保管されるのではなく、全体を関連付けることができるため、プロセスの階層や前後のつながりをリンクで行き来できるようになります。全体を把握したり不整合がないかを確認したりするのに有効です。

また業務プロセスを変更するとき、オブジェクトをずらしたり線をつなぎ直したりする必要はありません。アクティビティの追加や削除をすれば、ツールが自動的に線をつないで再配置してくれます。一連のアクティビティを選択してサブプロセスにするなど、粒度の変更も簡単です。

細かな機能と使いやすさが、業務改善活動に大きな影響を与えることを、多くのお客様が体験されています。



ディスカバリー・マップ



プロセス・ダイアグラム 分析モード



IBM Datacap

Datacap は、紙のコンテンツ(画像イメージ・データ)から業務システムに必要なテキスト・データ(構造化データ)を抽出します。Datacap は、単純なOCR 製品ではなく、複数のOCR エンジンを持ち、定型と非定型の両方の帳票に対応し、画像の分類やデータ検証プロセスなど全体の自動化を支援することで作業効率・データ精度を向上させます。

- コグニティブ・キャプチャー (非定型帳票処理)
- OCR トータル・ソリューション (OCR 前後処理)
- 複数チャネルのキャプチャー
- システム連携 (RPA/ 他社 OCR エンジン/Watson 連携など)

- 役割ベースのデータ・マスキング (セキュリティ)
- クラウドでの文書キャプチャー
- 他のECMソリューションとの統合

Datacapの活用例

IBM Datacap は、スキャナー、FAX、デジタル・ファイル (PDF など)に加え、アプリケーションやモバイル端末からの画像もサポートしています。

活用例

- ・ 紙の申告書のマイナンバーの収集と管理を自動化
 - ・ 設計図面のデジタル化
 - ・ 金融機関の紙情報のデジタル化
- など多様な業界で利用されています。

OCR トータル・ソリューション

Datacap は、紙を含めたコンテンツ(非構造化データ)から業務システムに必要な業務データ(構造化データ)を抽出生成します。OCR の前後処理を含めたインテリジェントな処理により、データ抽出精度の向上とキャプチャー・プロセス全体の作業効率向上を実現します。

現状の課題

大量の書類、手作業による分類とデータ入力、目視検証、保管の手間、紙による保管ではデータとして活用できないなどの課題があります。

- ① 帳票の入力とグルーピング(バッチ作成)
- ② 書類をソートし帳票毎の分類
- ③ データ入力
- ④ データ検証
- ⑤ 書類の保存や送付

Datacap 採用後

OCR 前処理に必要な、帳票の準備や仕分け、データ抽出、入力と読取結果の突合、補正画面の表示などキャプチャー全体のプロセスを自動化します。

- ・ コスト削減 (紙保管・印刷・人件費など)
- ・ 処理時間の短縮
- ・ 高度な作業への人員シフト

大量の書類、手作業による分類とデータ入力、目視検証、保管の手間...



キャプチャー・プロセス全体の自動化



定型帳票の場合、事前に帳票の読み込む欄を定義しておきます。Datacap は、画像のバーコードや帳票自身の陰影(フィンガープリント)で自動的に帳票を認識し、事前定義に従いデータを抽出します。OCR エンジンは標準提供以外のものを組み合わせて利用することも可能で、文字認識精度を高めることができます。OCR 処理は、100%の精度は期待できません。そのため、人手による検証が必要になります。Datacap は、入力と読取結果を対応させて表示する画面を提供します。ここでは、信頼性レベルで色を変えて注意喚起を行うことができます。また、ルールやDBと連携したデータ検証による精度向上や役割に応じた帳票毎のデータのマスキングによりセキュリティ性を向上します。

非定型帳票への対応 (コグニティブ・キャプチャー)

同じ情報が書かれているのにフォーマットが違う多種類の帳票を扱いたい場合があります。このような非定型帳票のデータを次に示すコグニティブ機能により帳票の事前読み込み欄定義なしで構造化データとして抽出する機能を提供しています。



システム連携による自動・高度化

システム連携機能によりOCR業務のさらなる自動化促進と抽出データ精度向上の実現が可能になります。

- ・ RPA 連携による自動化促進
- ・ 他社 OCR エンジン連携による精度向上

Automation Document Processing

AI ベースのOCRソリューションです。ビジネス・ユーザーが多種類少量の非定型帳票を扱う場合に、Web の GUI ツールからコーディングレスでAI 機能を活用して利用が可能です。なお、OCR 処理は、2020 年 11 月時点で、英語/フランス語/スペイン語のみ対応しています。



IBM RPA with WDG Automation

AI を利用した新しい Robotic Process Automation (以下 RPA) により、インテリジェントな自動化を実現。単純・繰り返し業務に加え人の判断が必要となる複雑なタスクに至るまで、お客様が組織内のより多くの部分で自動化を加速し、従業員がより価値の高い仕事に集中できるよう支援を行います。

- レコーディング機能とドラッグ&ドロップでローコードによる容易な開発
- 650以上の豊富なコマンドでOffice ツールとWebアプリだけでなく多様な業務に対応可能
- RPAと統合した AI 搭載のチャットボットや音声認識機能で、より複雑な業務に対応
- ボットを実行するためのタイムスケジュールを管理
- 複数のボットに作業を分散しスループットを最適化、また同じバーチャルホストで複数のボットを実行し所有コスト削減
- RPAの資格情報は、暗号化されたリポジトリに安全に保存

RPA の利用

IBM RPA with WDG Automation (IBM RPA) は、PC 上での業務アプリの GUI 操作を自動化することで、反復タスク (データ抽出、データ転送、データ計算、またはデータ入力など) の生産性と正確性を向上させます。業界に関わらずいろいろな業務や作業で利用されています。

活用例

- Excel/csv から勤怠管理システムへの入力、各種書類作成
- 予約管理システムでの Excel からExcel への転記
- AI チャットボットを利用しコールセンター・各種問い合わせ業務の効率化
- 社内 IT 部門への問い合わせを AI ヘルプデスクとして代用
- 複数 Web サイトにアクセスし情報収集
- OCR フレームワークの前や後での作業自動化

IBM RPA が利用されているのには理由があります。

インテリジェント・バーチャル・エージェント (IVAs) チャットボット

定型化された各種申請処理や営業見積書作成のガイドなどでチャットボット製品を活用、またその指示を受け RPA が処理を実施というフローは RPA の代表的かつ発展的な使用方法です。IBM RPA は他社チャットボット製品と組み合わせることなく、RPA コマンドを組み合わせ、複数のチャネルを介してチャットボットを作成し、魅力的な顧客との対話を提供することができます。音声合成、認識、音声文字変換を備えた IVR 機能の提供、E1 および VoIP (SIP) を使用した通話も可能です。

開発生産性の高さと内製化のしやすさ

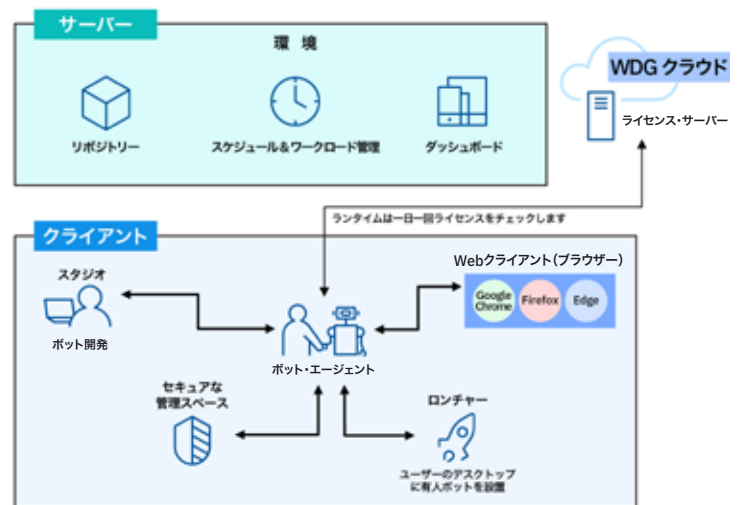
開発ツールである WDG Studio は、ソフトウェア開発者でなくても、独自のボットを作成することができます。1つの IDE には 650 以上のコマンドがあり、ボットの開発がよりシンプルで簡単になります。レガシーシステム、Web、Windows、Java、SAP、3270 端末を介したメインフレーム、チャットボット、API などさまざまなシステムやサービスを統合することができます。

Cloud Pak への統合で自動化範囲を拡張

IBM RPA は単体利用だけでなく Cloud Pak for Business Automation にも統合されます。Cloud Pak for Business Automation 内の Business Automation Workflow・Operational Decision Manager・Datacap・Content Management 製品と連携を容易にし、単純作業に加え、エンド・ツー・エンドの業務プロセスの自動化を可能とします。

ワークロード管理

複数のボットにインテリジェントに作業を分散させ、スループットを最適化します。また同じバーチャルホスト上で複数のボットを実行することが可能です。同時に最大15の複数ボットを同じホスト上で実行することで、ハードウェア、仮想マシン、およびオペレーティングシステムのコストを大幅に削減することができます。



IBM FileNet Content Manager

IBM コンテンツ管理は、数百万から数億件にも及ぶエンタープライズレベルの大規模コンテンツ管理を実現し、業務および情報共有を効率化するためのさまざまな機能を有します。また、機密性の高い文書を安心して共有できる高度なセキュリティ機能や、他システムとの柔軟な連携を可能にする、標準技術を採用したAPI、業務に合わせた操作性を容易に実現する画面カスタマイズフレームワークを提供します。

- 開発・システム連携性 (Web 画面開発フレームワーク/標準技術 APIの提供)
- 大規模コンテンツ管理アーキテクチャー
- 迅速なデプロイのためのオプション (SaaS 版/ コンテナ版の提供)
- 堅牢なセキュリティ
- 業務生産性向上 (Web/Mobile 画面、コラボレーション・Office 連携・外部共有機能)
- 業務プロセス管理連携 (IBM ワークフロー)

IBM コンテンツ管理の活用例

企業の基幹業務で利用する重要文書の管理・活用が可能です。
活用例

- ・保険新規契約/支払査定イメージ管理
 - ・銀行の融資稟議書管理
 - ・グローバル契約書管理
 - ・グローバル重要技術文書管理
- など多様な業種で活用されています。

コンテンツの課題

分散した管理されない状況が多く、検索・共有が困難かつコンテンツが安全に保護できないセキュリティ上の課題があります。

統合管理されていないコンテンツ検索は困難

- ・ファイルの同期と共有
- ・ネットワークドライブ
- ・PC / モバイルデバイス

異なるシステムに存在する管理されないコンテンツ

- ・重複と断片化

ファイルのホスティングと共有サービス

- ・コンテンツ分散によるセキュリティ、プライバシーとコンプライアンスのリスク

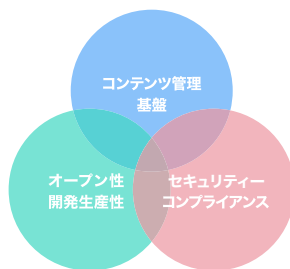
規制への対応

- ・管理されていないコンテンツの保護が困難

企業レベルの大規模安定稼働アーキテクチャー

企業レベルでの統合コンテンツ管理アーキテクチャーの提供により、文書数や処理量の増大に応じて CPU / メモリー / ディスクサーバー増強、マルチクラウド対応のコンテナ版提供により、拡張性のある安定稼働の実現が可能です。

国内外で、金融 / 公共 / 製造などで小規模から数万人・数十億件の大規模まで多くの稼働実績を有します。



業務生産性の向上

カスタマイズ性の高い IBM Content Navigator の Web/Mobile 画面、ソーシャルや Office 連携、外部共有、CMIS (Contents Management Interoperability Service) 連携による他社コンテンツ、IBM クラウド版コンテンツの統合により、社内外で共有してコンテンツを活用することが可能です。どこから、どのデバイスからも統一したコンテンツのアクセスが可能です。



セキュリティ・ポリシーの統一

コンテンツ・属性単位の複雑なアクセス制御、コンテンツの暗号化、外部鍵管理、コンテンツ操作ログの管理、Web ビューワーによるダウンロード禁止、期日管理により、セキュリティ性を向上して企業の重要コンテンツを高度に保護します。

開発・システム連携性

標準技術 (HTML5/CSS3/JavaScript) ベースの Web 画面開発フレームワーク / 標準・最新技術 API (GraphQL など)、他システム連携コネクタを提供します。これにより、お客様のご要望にあわせた業務画面やシステム連携の検討と迅速な開発・変更対応が可能になります。

- 他システム連携コネクタ例：電子署名、CRM、ERP

Business Automation Content Services on Cloud の提供 (SaaS 版)

コンテンツ管理とコンテンツ・ライフサイクル機能を提供するパブリッククラウドのコンテンツ・サービスです。

卓越した拡張性、セキュリティ、安定性、移動性を備え、さまざまなユースケースで利用できる高度なコンテンツ管理機能を提供します。

- ・柔軟な月額サブスクリプション
- ・セキュアで拡張性のあるクラウド・インフラストラクチャー
- ・迅速なプロビジョンと即時アクセス
- ・パブリッククラウドからいつでもどこからでもアクセス
- ・先進的な文書管理機能



*ECM: Enterprise Content Management



IBM Business Automation Workflow

業務オペレーションに合わせて、複数の業務機能を連携し、見える化するワークフロー基盤です。業務進捗やボトルネックをリアルタイムに見える化するとともに、AIやRPAなど新しいテクノロジーと既存システム、外部API、人を柔軟に連携して、デジタル時代の業務オペレーションを実現します。

■業務パフォーマンスをリアルタイムに見える化

- ・業務全体から個別案件までドリルダウン
- ・チームの案件滞留状況や処理履歴の確認
- ・重要な業務データをグラフ化

■パイロットから大規模プロジェクトまで実績のある基盤

■短時間で業務のワークフロー化や業務変更への対応を実現

- ・定義したプロセス(BPMN)がそのまま動く
- ・プロセス(BPMN)も画面も、ワンクリックで動作確認
- ・既存システム資産や外部APIを柔軟に連携

働き方改革の実現

働き方改革が叫ばれる中、いつも忙しいけれど原因が特定できない業務の現場が数多くあります。背景にあるのは「見えない業務プロセス」です。現場は定められた手順とルールに従って、毎日一生懸命に作業を進めています。しかし手順の効率性やルールの根拠が長い年月を経て不明確になり、「属人化」「ブラックボックス」「ローカル・ルール」による硬直化が進んでいないでしょうか。



IBM Business Automation Workflow (BAW) は、業務の流れとパフォーマンス見える化し、効率化と自動化を実現します。例外対応を含めた業務オペレーションの整流化により、「ブラックボックス」が管理可能な状態になり、業務の精度と品質が向上します。「ローカル・ルール」を精査することで、コンプライアンス対応と業務の標準化が進みます。無駄な手順を省き、単純作業にRPAを適用するなどの効率化を進めることで、「属人化」した匠の技を伝承する余裕もできるでしょう。

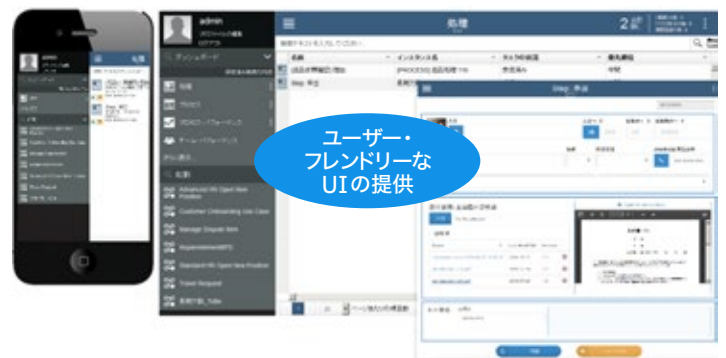
BAWではプロセス(BPMN)として書けない順序性のない作業(ケース管理)をサポートしています。BAWの基盤上で実行することで履歴が蓄積され、例外や少数ケースを徐々にフロー化していくことができます。

また既存システムやパッケージ・アプリケーションを直接変更せず、プロセスや画面をオーバーレイして自社の業務にカスタマイズすることができます。段階的なモダナイゼーションや、自動化に柔軟に対応する仕組みとしても数多く活用されています。

デジタル時代の業務オペレーション管理

多くのお客様でチャットボット画像認識などAI活用が始まっています。しかしAIにより拡大した顧客接点にバックエンド業務が対応しきれなければ、テクノロジー採用による業務効果を最大化することはできません。バックエンド業務でも登録・確認・判断といった作業の自動化を推し進める必要があります。

自動化された作業を管理するには、手作業を前提とした人による業務報告ではなく、自動モニタリングによる処理結果レポートの確認や進捗把握が必要です。BAWでは人が処理した作業だけでなく、AIやビジネス・ルールがどのような判断をしたか、RPAの作業実績やRPAと人の連携で待ち時間が発生していないかといった業務プロセス全体のパフォーマンス見える化します。



見える化されたパフォーマンスを元に、優先度や担当者を変更したり、特定の条件を満たした案件を自動承認したり、さらなる業務の改善や効率化を進めていくことができます。



IBM Operational Decision Manager

計算、判断、確認など柔軟に変更したい部分の実装をプログラムのソースコードから分離し、ルールとして実装して管理します。変更の少ない安定したシステム基盤と、柔軟に変更・進化させたい業務ロジックとを分離します。業務ロジックがルールとして可視化されることで、ビジネスとITのコミュニケーションの改善に役立ちます。

■ 変更に強いシステムを実現

- ・ 度重なる仕様変更にも柔軟に対応
- ・ 業務変更の検討開始から実施開始までの期間を大幅に短縮

■ ロジックの整理・管理が可能

- ・ いつ、誰が、どのような変更を行ったかがわかる

■ ロジックの可視化を実現

- ・ 業務用語、表形式などの可読性の高いルール定義
- ・ ビジネス・ユーザーが作る規定集と同じ感覚

メンテナンスコストの大幅削減

稼働しているビジネスルールのロジックが業務担当者にも分かり易く記述されているため、ロジックの変更・追加においても効率的な要件の理解・反映を行うことができます。既存の実装では、いわゆるビジネス的な判断の業務ロジックは、システムの中で実装されます。それはプログラム・ソースコードであったり、DB のストアード・プロシージャであったりします。ビジネスの変更＝ルールの変更はそのままシステムの実装コードの変更となります。また、時間の経過とともに仕様書/設計書と実装コードが乖離し現状はソースコードだけが正しいといった状況はよく聞かれることです。



システムの柔軟性や監査性および自動化による業務効率を向上させることを目指します。ODMの特性としては、単に日本語や表形式で可視化される、というだけでなく、ルール個々は疎結合な宣言的な定義になり、階層化されたフォルダー構成でルールを配置し整理・管理できるという面も、重要な特性です。これにより導かれる効果は、ビジネスの変更に対するシステムの更新にかかるコストを削減し、また、その変更が実施されるまでの時間も劇的に短縮されます。



ODM を適用したシステムでは、定義されたルールは、ルール実行環境に取り込み、既存の業務アプリケーションからはルール実行環境を呼びだします。ルール実行環境は受け取ったデータに対して、取り込んだルールの定義に従って処理を行い、結果を返します。このようなルールを分離した構成と、ルールの開発・管理環境の機能性により、変更に対するシステムの保守性は格段に向上します。ルールは日本語や表形式の記述により可視化されそのレポートはドキュメントとして参照されることが可能です。ルールの管理環境はビジネス・ユーザーにとっても解りやすく扱いやすいものなので、日常的なルールの更新はビジネス・ユーザーの側で完結することも可能になります。

業務効率の向上

ビジネスルールを外部定義化することでビジネスルールの一元管理を実現し、また、ビジネスルールを可視化(業務担当者が理解できる)することで結果として

幅広い業界で採用

ODMは、汎用的な技術であり、その適用は幅広い分野で利用可能です。その導入の動機付けとなり、効果が期待されるビジネス的なシチュエーションには、外部的な要因として、ビジネスの対象やビジネスそのものの変化の激しさ、競争の厳しさがあります。ODMによる変化への対応は競争力の向上、ビジネスチャンスの拡大などビジネスそのものに大きな効果をもたらします。

新しい取り組み

IBM は地球上の大半を占める海洋を守るために、Mayflower Autonomous Ship (MAS) を支援しています。MASは、人間の船長や乗組員がいないため、AIと自動化の力を利用して、データと発見を求めて海を横断します。船の安全な走行のために、機械学習に加えリスクを回避するための自動化ソフトウェアとしてODMのテクノロジーが活用されています。(https://mas400.com/)



IBM Cloud Pak for Business Automation IBM Digital Business Automation on Cloud

IBM 業務自動化ソリューションをクラウド環境で提供します。

オンプレミスおよびコンテナ化した IBM Cloud、AWS、Azure、Google などマルチクラウド環境に提供する IBM Cloud Pak for Business Automation と IBM Cloud で SaaS 提供する DBA on Cloud があります。統合されたプラットフォーム上で、迅速かつ柔軟に機能を組み合わせてさまざまな業務の自動化を促進し、デジタル・トランスフォーメーションを加速します。

IBM Cloud Pak for Business Automation

- OCR、BPM、ECM、意思決定他の業務自動化機能を提供
- シンプルで柔軟なパッケージ・ライセンスで購入、拡張が容易
- モニタリング機能でビジネスの可視化と知的アドバイスを実現
- コンテナベース・アーキテクチャーで業務の成長や拡大に柔軟に対応

DBA on Cloud

- モデリング、OCR、BPM、ECM、意思決定の機能をクラウドで提供
- 統一化されたユーザー・エクスペリエンス
- 運用や管理の簡素化によるコストの大幅な削減
- 構築不要で迅速な業務自動化と柔軟な拡大に対応

クラウドを利用したデジタル・レイバーの実現

業務自動化ソリューションの運用や管理を簡素化し、ビジネスの成長や拡張に柔軟かつ迅速に対応できるように IBM Cloud Pak for Business Automation と DBA on Cloud を提供します。

IBM Cloud Pak for Business Automation

OpenShift コンテナベースのキャプチャー、コンテンツ管理、意思決定とワークフローや RPA などの自動化機能を提供します。コンテナの利用で迅速なデプロイメントと運用コストの削減を実現できます。さらに IBM Cloud Pak for Business Automation では次のコンポーネントを提供しています。

オペレーショナル・インテリジェンス:

IBM Business Automation Insight

次世代のモニタリング機能で以下を実現します。

- ・ データレイク：プラットフォーム上の全ての業務オペレーションからのイベントをクラウド上に収集し、相関を計測
- ・ ダッシュボード：経営者やマネージメントに必要な情報をリアルタイムに見える化する洗練されたダッシュボード
- ・ アドバイス：AI (Watson) と連携し、データレイクに機械学習を適用することで洞察を導き、業務プロセスや意思決定の改善ポイントを推奨

簡易ワークフロー：IBM Automation Workstream Services

増え続ける業務を効率的かつ効果的に処理できるよう事前定義の生産性サービスを提供します。単独での使用もワークフロー作業での使用も可能です。

統合開発環境：ローコード開発ツール

自動化機能を統合的に一貫性を持って利用した、ビジネス・ユーザー主導による改革を支援します。

- ・ Business Automation Studio: IBM Cloud Pak for Business Automation プラットフォーム用の単一のオーサリングおよび開発環境
- ・ Application Studio: 自動化機能を使用するビジネス・アプリケーションを作成するためのアプリケーション・デザイナー
- ・ Automation Service Catalog: 再利用を促進し、ビジネス・ソリューションの作成を加速する自動化サービスカタログ

IBM Digital Business Automation on Cloud

IBM Cloud で次の機能を SaaS として提供しています。構築や運用のコストを削減できます。また必要な機能とサイズを柔軟に選択できるので新たな実装に伴うリスクを低減できます。

- モデリング：Blueworks Live
- タスク：IBM RPA with WDG Automation
- キャプチャー：IBM Automation Document Processing on Cloud
- ワークフロー：IBM Business Automation Workflow on Cloud
- コンテンツ管理：IBM FileNet Content Manager on Cloud
- 意思決定：IBM Operational Decision Manager on Cloud

各環境に提供されている自動化機能は以下になります。

	モデリング	タスク	ワークフロー	意思決定	コンテナ	キャプチャー	オペレーショナル・インテリジェンス	統合開発環境
OpenShift			○	○	○	○	○	○
SaaS	○	○	○	○	○	○		
オンプレミス		○	○	○	○	○		

参考 <https://ibm.biz/CP4A-JPN>



参考 <https://ibm.biz/DBAonCloud>



お問い合わせ

IBM アクセスセンター

メールフォームでのお問合せ

☎ 0120-550-210 受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日および12月30日 から1月3日を除く)

ibm.biz/MAIL_CLOUD

このカタログの情報は2021年2月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。サービスや製品の詳細については、弊社の営業担当員にご相談ください。

